



政務活動費収支報告書

平成 30 年 4 月 6 日

瑞穂町議会議長

小 山 典 男 様

議員名 小 山 典 男 

平成 29 年度政務活動費について、次のとおり収支報告します。

- | | | | | |
|---|---------|----------------|---------|----|
| 1 | 収 入 | (政務活動費交付額 金 | 100,000 | 円) |
| 2 | 支 出 | (政務活動費支出額 金 | 138,040 | 円) |
| 3 | 添 付 書 類 | 支出に係る領収書等の証拠書類 | | |

平成29年度 政務活動費 収支報告書

議員名： 小 山 典 男

1 収 入

項 目	金 額	説 明
政務活動費 (①)	100,000 円	当初交付金

2 支 出

項 目	金 額 ※1	説 明
調 査 研 究 費	57,237 円	支出内訳参照
研 修 費	円	
広 報 ・ 広 聴 費	円	
資 料 作 成 費	5,000 円	
資 料 購 入 費	75,803 円	
合 計	138,040 円	

差引金額 (①-②)	△ 38,040 円 ※2
------------	---------------

※1 使途項目ごとに集計の上記載してください。

※2 差引金額に残余が生じた場合は、この金額を返還してください。
(差引金額が△(マイナス)の場合は返還の必要はありません。)

支出内訳

項目	適用及び内容 (視察の場合は日程及び場所を記入すること)	支払金額	備考
調査研究費	7月24日～26日 宮城県利府町、山形県川西町	57,237 円	
資料作成費	消耗品費 (プリンターインク)	5,000 円	
資料購入費	日本経済新聞(29.4～30.3)	56,063 円	
資料購入費	西多摩新聞(29.4～30.3)	9,864 円	
資料購入費	しんぶん赤旗(29.4～30.3)	9,876 円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		138,040 円	

平成29年度自民新政会視察報告書

議員名：小山典男

1 期間：平成29年7月24日（月）～平成29年7月26日（水）

2 参加者：小山典男、原成兆、森亘、石川修、古宮郁夫、村山正利
村上嘉男、山崎栄、吉野一夫

3 視察先及び視察項目

都道府県名	市町村名・施設名	視察項目
[1] 宮城県	利府町	人口増加策について

[2] 山形県	川西町	議会改革について
---------	-----	----------

[3] 7月26日 早朝、公務のため東京まで帰りました。

4 視察報告

(1) 選定理由

[1] 利府町は、人口が安定的に増加している。そこで、その要因を調査し、わが町の今後のまちづくりへの方向性や効果的施策を検証する。

[2] 川西町議会は予算・決算等で政策評価・事業評価を行い全議員で取りまとめた提言を提出している。また、議会だよりも毎回コンクールで金賞あるいは上位入賞しており、議会機能が充実している。そこで、議会運営の方法や各議員の取り組み方など調査見聞し、わが町の議会機能の強化を図ることを目的とする。

(2) 視察内容

[1] 宮城県利府町
《人口増加の要因》

(外部要因)

- ① 仙台市までの鉄道が走り通勤通学に有利でベッドタウンとしての環境が備わっている。
- ② 県営の総合運動場がある。
- ③ 楽天球団の2軍の練習場があり、町民は無料で観戦できるなど、民間企業の協力が得られている。

- ④ 町内にある県立高校には県内唯一のスポーツ科学科があり、恵まれたスポーツ環境を求めて移住する方がいる。

(内部要因)

- ⑤ 区画整理が順調に進んでいる。

- ⑥ 子育て支援が充実し、PRが積極的になされている。

外部要因を生かすとともに、町の施策としても若年世代にとって魅力的な状況を創出している。

《特徴的な子育て施策》

- 1、子育て世代への分かりやすい情報提供。

子どもの年齢別サービスが利府町HPで情報発信されている。

- 2、子育てに関する窓口のワンストップサービス化

窓口には子どもが遊べるコーナー、かわいいイラスト等があり、気楽に相談しやすい環境を創出している。*但し、厚生労働省関係と文部科学省関係の統合的な行政事務はなされていない。

- 3、町民への郷土愛護を醸成しうるパフォーマンス

利府町で出生届を出されたご夫婦には、担当課職員全員が立ち上がって白拍手、祝いの言葉とともに、記念品（出生祝い品：オムツでできたケーキ）を贈呈する。

- 4、若年世帯の経済状況を鑑みての助成事業

各種助成事業は利府町HPから確認できるが、特に体操着の助成については、所得水準が比較的低めの若年層世帯の保護者から大変喜ばれているといった説明があった。

《課題》

- 1、子育て環境の充実に向けて先進的な取り組みをしてきたが、近隣でも同様のサービスを開始した自治体があり、町の優位性を示すのが難しくなってきている。

- 2、子育て関係について窓口を一本化したが、住民サービスの向上につながっているか、職員間で意見が分かれている。

《所見》

利府町は仙台市から通勤圏内にあり、県営の総合運動施設、楽天球団の2軍のグラウンドを有しているなど、地理的に恵まれた環境にある。町にはかつて区画整理された住宅地があるが、新たに区画整理をし、若年層を呼び込むことで、人口増と年齢バランスの適正化を鑑みた、持続的な町の発展を念頭に置いた施策展開をしているものと推察する。特に、利府町の子育て施策は、事務的措置という印象が微塵も感じられない。町民の生活に寄り添った各種施策が生み出されている。これは、窓口が一本化されたことと、担当職員に女性が多いことなど、管轄という枠を超えた広い視野に立ち、女性の目線に立ったアイデアが生まれ

やすい土壌にあると判断する。窓口の一般化については事務処理について課題を感じている職員もいるとのことだが、子育て関連の窓口の一本化については一定の成果が期待できているものと思われる。

わが町でも子育て支援策は近隣市と比較しても遜色なく、むしろ先進的な取り組みをしている施策もあるが、広範に周知され、町民に浸透しているようには思えない。これは、子育て環境を充実させて若年世代の定住促進をまちづくりの核にして邁進している利府町のような自治体と、全体のバランスを鑑みながら進めるわが町の町づくりの違いによるPR戦略の違いではないかと推察する。

なお、利府町はアンケート、窓口対応など子育て世代の方々の意見を収集するための工夫や出産後の担当窓口職員全員によるお祝いなどがなされており「自分たちが歓迎されている」といった好印象を持たれると共に郷土愛護の涵養にも役立っているものと思われる。これらの行為は予算をかけることなく可能な行為であり、数字では表すことのできない成果をもたらすものと思われる。また、職員全体で行われていることにも意義があるため、組織の在り方と同時に、行政は町民とどのように接すべきかを併せて考える必要があると改めて認識した。

[2]山形県川西町

《政策提言の手法》

川西町の政策提言までのプロセス等は、川西町議会HPで詳細に記載されているため割愛する。

《川西町議会及び執行部の状況》

- ① 町長が議会出身で議会活動に理解がある。
- ② 「議会だより」の編集には議会事務局職員は一切関与しない（印刷業者選定の入札のみ）
- ③ 「議会だより」は各議員が担当ページを決めて（概ね各P2～P4）で一般質問、議案終了後2日以内で作成する。
- ④ 客観性が担保されているかは編集委員長がチェックしている。
- ⑤ 「議会だより」が議会活性化に大きく影響している。
- ⑥ 議員個々がお任せ型ではない。
- ⑦ 町の政策に対して議決機関としての責任を強く負っているという意識が強い。
- ⑧ 議会報告会が政策評価に重要な判定基準になっている。
- ⑨ 政策評価の評価基準は全議員が責任をもって点数化し、平均点を算出して政策評価としている。
- ⑩ 点数が低く評価された事業等、提言された政策は改善がなされている。

《所 見》

瑞穂町議会ではマニフェスト研究所の中村先生の指導を受けながらさらなる改善に取り組んでいる。確かに、ポストイット、ホワイトボードなどを活用し

ての要点整理は討議内容をクリアにするなど効果が見られた。しかし、一方で予算・決算特別委員会における議員間討議では、討議における結論をどのように具現化するか、その手法においては未だに成し得ているとは言えない状況にある。川西町は執行側が提案した事業が果たしてどのような成果があったのかを、議会報告会など住民の意見等を収集しながら検証評価し、議会の提言として文書において提出し、その内容を広くHPで公表している。これは、予算を議決した以上、執行部側の政策を認めたという議会としての責任を自らが評価することにもつながり、また公表することで有権者に議会の機能を評価して頂くという側面もあると考える。それだけに、議員の職責について自ら厳しく律しているものと推察される。そうしたことが、「議会だより」を事務局職員の力を借りることなく、担当の各議員が2～4ページの原稿を担当、二日以内で仕上げてくることの証ではないかと考える。

わが議会において、これまで予算・決算の特別委員会で2回の議員間討議行ってきたが、そのいずれにおいても満足する結果が得られたと感じた議員はいなかったのではないだろうか。この背景には議員個々の意見や主張があくまでも個人的な見解、あるいは会派の見解に留まり、議会全体の意志を反映するという意識の不足と、提言等に至るまで道筋が確立されておらず、十分な調査時間の確保も得られていない段階での意見報告に留まっていることに起因しているのではないかと考える。川西町は、議員一人一人が議会の意思決定の協力者とならなければならないということを強く示唆していたと認識させるものであった。

(3) 会派から町への提言

[人口増加・子育て支援策について]

- ・町でも子ども課（仮称）の設置が検討されているが、女性の職員の適正配置と女性職員の意見を引き出しやすい環境に十分配慮されたい。また、組織統合による職員の過剰労働につながることをないように検討されたい。
- ・公立小中学校の体操着への助成について検討されたい。
- ・町の先進的な子育て施策について町内外に広く周知されるよう一層の工夫を講じられたい。

